

## 発 刊 に よ せ て

愛育研究所の大きな役割として位置づけられております職員研修の中でもひとり一研究は中心となる研修として46年という長い歴史を刻み、職員にしっかりと定着してきております。2年に一回研究したことをまとめ上げ、広く皆様の前で発表しご指導をいただく機会は、職員にとって自分の力量を高め、福祉を担う職員としての自覚のもと、より良い支援者として成長できる絶好の機会であると考えます。現に発表の機会を得た職員は、それぞれの施設の中で、リーダーの役割を果たす中堅職員や幹部職員として自信と誇りを持って職務にあたり法人経営に大きく貢献してきております。

さて、今回の研究内容もそれぞれの部会毎に日々の実践の中から掘り起こされた課題を一人一人のテーマとして取り組み、解決に向かって研究を深めレポートとしてまとめ上げてきましたが、その中身は、日々対応が迫られる切実な課題で研究の成果がすぐ実践に結びつき、職場内で共有できる内容にもなっております。どのレポートも課題に真正面から真剣に取り組み、追及している姿勢が強く感じられ、頼もしくまた、そのように育ってきている職員を誇らしくも思った次第です。

この研究紀要には、各施設一名と限られた人数のレポートしか掲載出来ないのが残念ですが、提出されたその他のレポートもよく課題を捉え試行錯誤を繰り返しながらも研究を深め、課題に迫る様子がまとめられており、研究が、今後の実践に生かされ福祉を担う職員としての力量を高める機会になったことをうかがい知ることが出来ます。次回にはぜひ発表の場に立つことを目指して切磋琢磨し合いながら研究に取り組んでいってほしいと強く願っております。

このように、社会福祉法人愛護会の研究組織と2年に一回の一人一研究のまとめと公開研究発表大会は、職員の資質向上の要であり、私どもの誇れる財産です。これからも職員が意欲を持ち、積極的に取り組める研究の在り方を模索しながら、積極的な提案が出来る研究を世に問えるように精進してまいりたいと存じます。私どもの日頃の研究と実践に対しまして、どうぞご忌憚のないご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、忙しい日常の業務をこなしながら研究に取り組んだ職員の皆様と研究紀要をまとめ上げ、発表に漕ぎ着けるために努力された愛育研究所事務局員の皆様、関係各位に心より御礼申し上げ、発刊にあたっての挨拶と致します。

平成30年 7月

愛 育 研 究 所  
所長 及川 紀美子